

新しい友だちつくろう

広報 はばたき

新発田青少年健全育成市民会議

【健民少年団主催】

レクリエーションのつどい

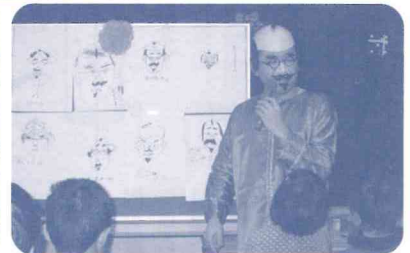
プレゼント交換



12月9日(日)

児童センター「遊戯室」

似顔絵コンテスト



キャンドルサービス



買い物に行こう



じゃんけん列車



もちつき



青少年健全育成市民一斉パトロール出発式

新発田青少年健全育成市民会議

平成24年11月3日(土・祝日)
駅前公園にて出発式を行いました。
その後、カルチャーセンター、コモタウン、イオンの3会場他
各地区の育成協議会で啓発活動を行いました。



「いじめ・命を考えよう」をテーマに、青少年の健全育成に係わる多くの団体が集い、現状の報告と対策について、情報や意見の交換をしました。その概略を紹介します。

〓 現況報告 〓

《新発田児童相談所》

所長 樋口 賢二 様

昨年度、新発田管内では70件の児童虐待について対応しました。年齢別に見ると小中学生の相談が全体の60%、幼・保育園児が20%、0歳から3歳児の相談件数が16%となっています。

主な虐待者の73%が実母というのが実態です。虐待の内容はネグレクトの相談が最も多く、全体の46%でした。子どもを放置・放任する例が多かったということとなります。

児童虐待は早期発見・対応が大切です。そのためにも地域の皆さんから児童虐待について関心を持って貰うよう、啓発・普及が必要だと考えています。

《新発田警察署生活安全課》

課長 神田 宏 様

新発田署管内の刑法犯は、ここ数年減少傾向にあったのですが、昨年同期と比べると若干増加傾向にあります。内訳は自転車泥棒が155件、万引き116件、器物等損壊が104件となっています。

10月末までに補導した犯罪少年（14歳以上）は44人、それ以下の触法少年が7人、合計51人です。



した。昨年同期と比べて17人減です。昨年多かった触法少年による万引きが、大きく減少しています。

注意が必要だと思われるのは、暴行・傷害が昨年に比べて6人増加しています。子どもたちが粗暴になってきているようですね。

遊びやふざけ合いかから生徒間の暴力行為、いじめに発展することもあります。学校でも注意深く見守り、警察沙汰になる前に、お互いに注意や指導をすることによって、防げるものもあると思います。

いじめの現状と対策

《新発田市教育委員会学校教育課》

課長 岡田 正栄 様

大津の事件を受けて、文科省から「いじめ緊急調査」の指示が

青少年はぐくみ環境懇談会 平成24年11月28日(水) ～いじめ～ 命を考えよう

《参加団体》

- | | |
|--------------------|----------------|
| ○ 新潟県新発田地域振興局児童相談所 | ○ 新発田警察署生活安全課 |
| ○ 新発田市教育委員会 | ○ 市少年補導委員会 |
| ○ 新発田阿賀北地区保護司会 | ○ 市民生委員児童委員連合会 |
| ○ 市立車野小学校 | ○ 少年補導員等連絡会 |
| ○ 市立加治川中学校 | ○ 市小中学校PTA連合会 |
| ○ 私立中央高等学校 | ○ 社会教育委員 |
| ○ 青少年健全育成市民会議・事務局 | ○ 市防犯組合 |

ありましたが、当市ではそれ以前から各校の状況を把握・確認しておく必要から、全学校に対する調査を実施しています。

その結果、いじめの認知件数は小中併せて72件、その内、既に解消しているものが52件でした。昨年度一年間の認知件数が45件

であったものが、一学期の間に72件に増えました。これはいじめが急増したと言うよりも、今まで以上にしっかりと子どもたちと向き合い、子どもたちと話し合った結果が出てきたのであろうと考えています。

その他に、各学校では早期発見・早期対応のための実態調査、教育相談、いじめ見逃しゼロスクール運動、学級満足度調査等を計画的に実施し、個別指導、学級・学校経営の改善が進められています。

自らの命を絶つというような最悪の選択は、決してあってはなりません。「いじめは絶対に許さない・見逃さない」ということを肝に銘じて、子どもたちと関わっていくことが必要です。市教委としても学校での取り組みへの支援、状況把握、組織体制

や相談体制の充実に努めていきます。

《新発田市立車野小学校》

教諭 佐藤 八十穂 様

子どもたちの人間関係づくりについて、大きく二つのことに取り組んでいます。

一つは「ソーシャルスキル教育」です。主に教師が行う寸劇を通して、良好な人間関係を作り、保つための知識と具体的な技術を身に付けさせることを目的とした取り組みです。「あいさつ・ほめる・励ます・謝る・感謝する・応答する」等について、温かい言葉がけを学びます。

もう一つは「縦割り班活動」です。上学年と下学年が一緒にチームになって活動し、子どもたちに自己有用感を持たせ、「対人間関係能力」を高めることを目指しています。

《新発田市立加治川中学校》

教諭 大久保 忍 様

生徒会でラブ&ピースという活動を展開しています。その中に、生徒の自作自演による「いじめ防止劇」があります。始めに問題提起編を上演し、各クラスでいじめに対する対応策や解決策を考えさせ、数日後、解決編を上演するという活動です。

その他にグループエンカウターやソーシャルスキルトレーニングを、計画的に実施しています。さらに人と関わる力を高めるために毎週末、全クラスで班会議を行い、一週間の振り返りをするということを続けています。

生活アンケートの結果では、悩みを相談できる友達がいると答えた生徒が8割を切っており、友達関係が表面的になっているように思います。

最近、他の中学校の生徒との繋がりが広がり、それが性非行や性の逸脱行為に発展するケースが多いと言うことが、担当者間の情報交換の中で出てきています。各中学校での対策が急務であると考えています。

青少年はぐくみ環境懇談会





《新発田中央高等学校》

校長 関矢 伸雄 様

県内の高校では4月から7月までに117件、既に前年度の65件を上回るいじめが報告されています。今年になって急に多くなつたと言ふことではなく、今まで分かってなかつたものが分かつたからだと思います。

文科省の調査によれば、教師が発見したいじめは、全国平均では約52%なのですが、本県は23%、アンケートによる発見も全国平均で35%、本県はわずか7.7%です。これから見ても高校では小中に比べて、そういう部分の取り組みが弱かつたのではないかと思っています。

これらの反省にたち、本校の場合も今年のアンケートはできるだけ詳しく、具体的に状況を

つかめるように工夫し、問題点の早期発見に努めています。

起きた後の対応でなく、起こらない環境を作ることが大事です。そのためには勉強は勿論ですが、それ以外の所でも活躍できる場、居場所等を大事にしていきたいと思っています。

質疑

Q 市民会議 高橋氏

調査の仕方が違うので、結果の数字は今までのものとは比較できないというのは、妙な話に聞こえます。意味のある調査統計によつて本当の現状把握ができるのではないのでしょうか。

A 学校教育課 岡田課長

国県からの指定形式は無いので、学校が以前から実施している方法で現状を把握するようにお願いしました。

Q 市民会議 石塚氏

虐待に対する、その後の対応や解決の状況はどのようになっていますか。

A 児童相談所 樋口所長

虐待にはいろいろな要因が絡み合っており、一つの対応に何ヶ月も、場合によつては2年3年とかかるのが実状です。

Q 社会教育委員 皆木氏

アンケート調査や教育相談等先生方は多忙だと思えますが、人的環境作りへの支援はどのよ

うになっていますか。

A 学校教育課 岡田課長

補助教員を15名、介助員を90名ほど配置しています。他にサポート指導員を6人配置しています。

Q 保護司 渡辺氏

警察と教育委員会の連携・情報交換はどのようになっているのでしょうか。

A 学校教育課 岡田課長

学警連という組織があつて、警察、市教委、各小中学校の担当者が集まつて、定期的に情報交換をしながら、子どもたちの健全な成長を見守っています。

意見

◎ 民生委員連合会 佐藤氏

いじめ対策の王道は無いと思うので、大人が周りから見守り、いろいろな発信をしていくことが大切であると思っています。



補導活動を 通して

街頭補導活動から
見える子どもたちの姿

新発田市少年補導委員会

会長 澤村 陽一

「お帰り、気をつけて帰ってね。」と、巡回補導パトロール車から下校時の小学生にマイクから声をかけると、子どもたちが笑顔で元気よく手を振ってくれます。以前は、声をかけても振り向く程度でしたが、今ではすっかり私たちの行動にこたえてくれています。

《西新発田駅》



青色回転灯のついた車が頻繁に巡回しており、子どもたちも安心して家まで帰られるという気持ちになつてくることもあります。学校での取り組み強化もあります。いま学校では、地域とのつながりを深めようと、保護者や町内会・団体との連携に



《西しばた安心安全ステーション》

子どもたちが健やかに育つためには、学校とともに、地域・団体との連携がより一層必要と思っています。

私たちは「大人は僕たちをいつも見守ってくれている。」という安心感が出てきています。

取り組み
でいます。
巡回補導
をしてい
ても、校
門前での
あいさつ
運動や、
横断歩道
での安全



演題「台輪活動を通しての地域絆づくり」

新発田台輪 四之町し組頭取 佐久間大輔 様

講師略歴

- ・昭和54年より新発田の台輪活動に携わる
- ・平成13年、四之町し組台輪小頭
- ・平成18年、同副頭取

- ・平成22年、同頭取
- ・平成13年、第16回国民文化祭ぐんまの祭囃子フェスティバルに於いて、三の町い組と共に、新発田台輪のおおりを披露



私の少年時代をよくご存知の
恩師の目の前で、青少年の健全
育成の話をするのは、いささか
具合が悪いのですが、私が「健全
であつたかどうか」と言うこと
ではなく、台輪を通じて地域の
皆さんがどんなふうに係わつて
いるか、台輪に集まつてくる若
い衆が四之町に來ると、何でよ
く言うことを聞いてくれるのか
というようなことを少しお話し
たいと思います。

我々の大事な「し組の台輪」は、魚水島さん、桂医院さんの近くに小さい公園があるのですが、そこに格納してあります。今日もそこから提灯を出してきました。今年初めての台輪との顔合わせでしたが、私などは動いていない台輪を見てさえも気持ちがいまるような、勇気をもらえらるような気持ちになります。

四之町の台輪は材木町と言うだけあって、材木や彫刻、彫金、飾り物など、本当に良いものを使っているそうです。

しかし、時代の流れの中で、痛んだ箇所は補修もままならず、車輪が壊れたり柱が折れていたりして、私が子どもの頃は他の町内の子どもたちから「四之町のぼっこれ台輪」と、さんざん言われました。実際、あまりにもボ

ロボロで曳き出しがで
きなかつた
という年
もあつた
そうです。



昭和30年代に入つて、私どもの親に当たる先輩たちが、せつかくある台輪を何とか曳き出し、できるようにしたいと言ふことで、「四之町し組会」を結成し、十年以上かけてなんとか引つ張られるようにしたと聞いてます。

現在の「し組会」のメンバーは82歳の大先輩から15歳の少年まで、職業も建築、板金屋、呉服屋、魚屋など多種多様な方が集まっています。ですから台輪の修理なども、自分たちで直すことも沢山あります。他人任せにするのではなく、できることには自分たちが進んで係わっていく事で、責任感と台輪に対する愛着が、より強くなってくるのだと思います。

物としての台輪は勿論ですが、それに係わる組織やソフト、言い換えれば「地域の絆」を、次の世代に良いかたちで渡していくのが、頭取の責任でもあると考えています。

台輪に集まってくる若い衆の多くは、エネルギーを発散させたくて集まってきます。どうや

つたら、そんな若い衆と一緒に
台輪の運行ができるのか？先
輩たちが代々やってくれている
ことが幾つかあるので、お話し
します。

まず、取締と言われる若い衆をまとめる役の、人間の資質です。当たり前のことを正々堂々とやること、卑怯なことはいらないこと。これを肝に銘じておかなければなりません。

また、上の者がだらしがないと、何を言っても聞いてくれないし、説得力ありません。

例えば、台輪の運行の途中のちよつとした休憩の時に、取締役が、アスファルトの上にケツをついて休んでたりすると、「若い衆ががんばつてんのに、お前ら何してんだ！」必ず大変な檄が飛びます。ですから、諏訪神社を出て町内に帰るまでの5時間あまり、水を飲む時も、休む時も若い衆を先にして、役をもつ上の人たちは立ち通し、休憩は後回しです。

若い衆に法被渡しをする時には、私の手から直接、一人一人に渡します。その際に「四之町に出ていることを名譽と思つて、誇りを持つて台輪運行をしろらうこと。喧嘩祭りと言ふくらいだから、大怪我に繋がる危険な場面も

多々あり、そんな時に助けてくれるのは取締役だから、特に取締役の顔をよく覚



えておけ、取締役の言うことを聞
かなかつたら、法被を脱がして叩
き出すぞ。」と必ずお話をします。

また、台輪に集まる若い衆には、礼儀に關してもしつかりとお話をします。例えば、台輪を運
行していると、他の町内の方が
ご挨拶に来て、「今年も良いお祭
りにしましょう」だとか、「次は
どこどの角で、お祭りしましょ
う」と言うようなご挨拶を貰う
ことがあります。そんな時は、う
ちの町内の若い衆も、必ず豆絞
りを外して、来られた方の方を
全員向いてお迎えするように教
えています。

こういつた礼儀を一つ一つ教えていくのも、台輪が安全に動き、祭が盛り上がるひとつのこゝろだと思っております。

お祭りにはお酒がつきものです。二十歳になったばかりの若い衆が、いきなり50・60代の先輩に話に合ったりしても、話が合うものじゃないし、遠慮して





なかなか行かないんですね。そういった時には「まずは長老から」ということで、こちらから声をかけるようにしています。回数を重ねるごとに、先輩と若い人たちが、お祭りの話で盛り上がりつつある姿が見られます。「はやく小頭になりたい」とか「取締になりたい」など、若い子たちは若い子たちなりに、先輩にいろいろ意見を言うんです。それを目指してくれているということは、そこに今いる役職の間人も、彼らから認められていることであり、大変嬉しいことだと思っています。

ある先輩のお話だと「お前たち、なんで四之町に来るんだ」と聞くと「四之町はカッコいいから」、そんな風なことを言ってくれる若者が多いそうです。カッコいいっていうのは大事で、そのためには、小頭、副頭取、取締も、カッコよくないとそうはなりません。

お祭りにでている人間のカッコよさは、喧嘩が強いことや、きれいにあおることなどは、教えておりません。

また、お祭りをやっていると、どうしても目立ちたいものですから、一人で行く若い衆もいます。

自分勝手な行動、仲間を助けない行動、それもカッコいいことではないことを、厳しく教えます。

正々堂々と勇気を出して激しくぶつかり合う、そして引き際をラグビーでいうノーサイドのように、爽やかにすることがカッコいいことだと思っています。

台輪の役割、という言葉が正しいかどうかは別として、お祭りの前日に子どもを乗せて、町内の普段通らない裏の方までずつと廻ります。台輪つてのは煽らなくても、家の前を鉄の輪の重量感ある音が、ごろごろごろと通るだけでも、家の人は飛び出して我々のことを応援してくれます。何かこう不思議な力があるものだな、と、そんなふうに思っています。

台輪をやっていると、すごいオーラが出る、言い換えればそれは色気だと思ふんです。男の色気っていうのは、あつたぼうがよい。若い衆には「いい色気をだせ」という話をよくします。

反面、いつまでたつても喧嘩を止めない、目上の人に指示されても知らん顔をしてそっぽを向く、そういうところが悪いオーラにつながって、悪い祭り、見苦しい



台輪になる。そうならないために、我々、役料纏を着てる人間も、良いオーラ、いい色気を出して、カッコよくならなきゃな、とそんなふうに思っています。



台輪の持つていいる見えない力と若い衆の色気が一緒になった時、台輪は一番カッコいい。お祭りの善し悪しは、喧嘩の勝ち負けではなく、若者の発する色気があふれていることだと、最近私は強く感じています。

お祭りには腕自慢の生きのよい若者が、あちこちから集まってきます。しかし、町内で迎えてくれる老人たちとは、縁も所縁もない若者たちがほとんどなのが現実です。その若者たちが台輪に係わることを通して、地域への理解や愛着をもち、毎年、川の清掃や公園の草刈り、神社の雪降ろしまで手伝ってくれています。

こんな小さな地域の、小さな祭という社会の中にも「絆」は存在している気がします。地域貢献など漢字で書けない若い衆にも、感心させられる毎日です。この「絆」を次の世代に、いい形でバトンタッチしていくことが、私たちの努めであると思っています。

講演を聴いて

さわやか佐々木っ子育成会会長

後藤 政実

永年、台輪を通しての活動を続けて来られた、四之町し組頭取、佐久間さんの講演をうかがった。普段はなかなか聞けない祭りの裏話や、台輪に掛ける思いを熱く語ってくださった。中でも私がもっとも印象に残った事は、佐久間さんや会の皆さんは四之町台輪を、そしてこの地域を本当に愛しているのだらうと言うことです。

例えば話の中でも出てきましたが、高齢化が進んでいるこの地域を祭りの時期だけではなく、台輪を通して繋がりができた他所の人達の力も借りて、川清掃や公園の草刈、はたまた、神社の雪おろしまでやってしまおうという事でした。祭り以外でも大きな会に育っていて、無くてはならない存在になっていると思ひました。こんな人達の姿が話の中にも出てきた、かつこいと言う事なのではないのでしょうか。

又、若い人とお年寄りの関係も台輪というひとつの事を通して、普段はあまり話す機会のない者同士が繋がって行く様子をうかがうと、一昔前にはどこの地域にもあつた古き良き時代の人と人との繋がりは、こうゆうものだったと思ひ出させられました。

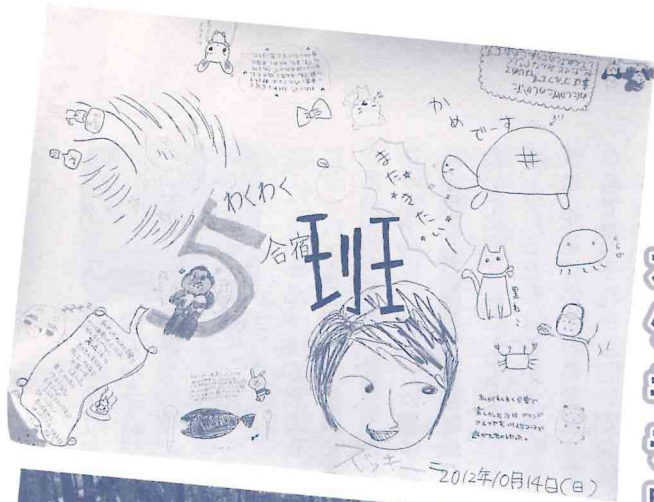
今、世間ではコミュニケーション革命が起きています。どこまで便利を追求するのでしょうか。もうそろそろ便利は良くないでしようか。こんな事考えるのは私もそろそろ年をとってきたのでしょうか。

新保 由香

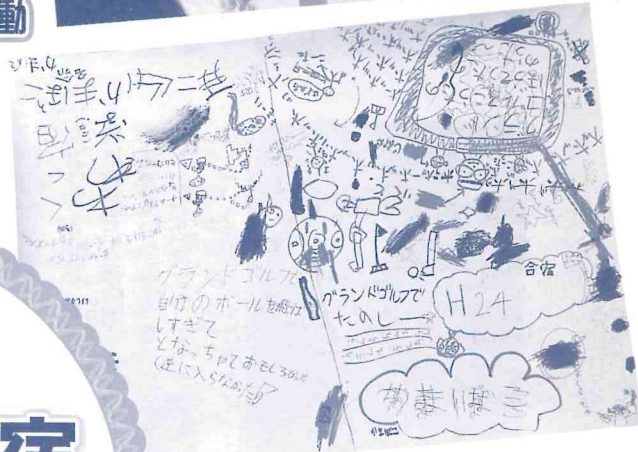
少々やんちゃな若者が集まってお祭りに参加する。「四之町し組会」の皆さんが築き上げてきた伝統の中で、「名誉と誇りを持つて台輪の運行をしよう」と「取締の言う事を聞かなかつたらその後お祭りには出られない」「礼儀の一つ一つを教える、お参りをする」「当たり前のことを、礼儀正しく、正々堂々とやる」ことが格好良い。それを若者たちに教えたい」という先輩達の熱い思いを、若者が体で感じて参加しているのだと実感しました。

見ている私たちはただ危ないとか怖いという事が先に立っていました。お祭り前の役員の方々のご苦労が伝わってきました。台輪の維持管理や、後世に伝えていくためのご苦労があると思います。これからは新発田の発展のためにはなくてはならないお祭りだと思ひました。台輪活動をおして、地域の人の絆の大切さを、これからの新発田を担う子どもたちに伝えて行くことが、青少年健全育成にも繋がって行くことだと思ひます。

(市民会議事務局)



オリエンテーション
グランドゴルフ
キャンドルサービス
チャレンジ体験活動
野外炊飯



10月13日(土)
14日(日)

わくわく合宿

新潟県少年自然の家

- ・健民少年団
- ・ボーイスカウト
- ・緑の少年団
- ・子ども会連合会
- その他



あとがき

本号より、表紙に号数を載せてあります。市民会議は昭和59年に設立、当初は市民会議便りを発行していましたが平成11年公募により、渋谷和子さんの「はばたき」が愛称として採用され第1号がスタートしました。

当時の便りにこう書いてあります。子どもの「心の声」に耳を傾けながら子どもの「生きる力」を信じて取り組んでいきたいと。

深刻な「いじめ」「体罰」など子ども達を取り巻く環境は変わらず、しっかりと寄り添っていかねばいけないと、改めて思いました。

(渡辺富子)

発行 新発田青少年健全育成市民会議
事務局 新発田市青少年健全育成センター
住所 新発田市緑町二丁目六番二十六号
電話 (〇二五四)二六〇八九七

編集委員

佐藤 靖雄 富樫 政晴
猿子 洋司 渡辺 富子
金田 緑 荒川真里子